

# 歐州の農業事情を視察して

工 藤 良 忠

「北海道生産農協連参事工藤良忠氏は約三ヶ月の予定で、去る九月十二日欧米農業情勢視察のため羽田空港を発つたが、この程スイス、ドイツ、デンマーク等から現地通信が寄せられたのでここに紹介する。」

## 国土は到るところ見事な牧草地

○スイスは山の国、そして農業は全く草の農業、私はグラース・ファミングと命名したいと思うくらいだ。傾斜地のエロージョン防止などと頭を悩ますより先ず草を植えよといいたい。

等高線栽培もさることながら、牧草そして牧草だ。全く等高線栽培などにこだわっていないようだ。

一体日本では牛といえばホルスタイン一頭張りのようだが（もちろん最近はジャージーなども入れられているが）もう少し世界各国がら牛を入れて研究する必要があるのではないか。

## 能率化された農機具

○スイスといい、ドイツといい一言にしていえば草と畜産の農業だといえよう。見事な牧草地、そこには緑したたるルーサンが所せましと生い繁つていて。肥つた牛が電気牧柵の中でも草を喰んでいる。

ドイツではメインハムやウルムでトラクターを始め各種の農機具を見学した。私の

## 見たトラクター工場など五千五百人が稼働し、三百六百台も生産されている。農機具

もなかなか発達して農家が実際に使つているものでも、ちよつとした工夫で極めて能率化された鎌やレーキがある。

ドイツは麦と馬鈴薯とビートの国と聞いていたが、私の見た小さい範囲ではタバコ、

アスパラガスなどの相当集約的な作物も栽培されている。フランクフルトからマンハイムまで約二時間かかるが、至るところタバコとアスパラガスが栽培されている。

ある会社の青年に「アスパラガスは輸出するのか」と尋ねると「みんな私どもの口に入るのだ」と答えたが、恐らく将来は輸出されることと思う、この点北海道のアス

パラガスなども大いに考えなければならない。

○ビートの抽薹が北海道でも問題のようだがこちらは至るところ抽薹をしている。やはり北欧も今年は気候が悪く抽薹が多いようだ。ビートは相当間切れが多いが、その

ている。なにもわが国農業にすすめるわけではないが土地を無駄なく利用していることは感心させられた。

## 山という山はほとんどが造林である

○林業のことになるが、昔から造林のことといえば大学の先生などはよく、ドイツやオーストリアに留学したが、全く山といいう山は自然林よりも造林が多い。日本の赤松のようなものやドイツトリーが多いようだ、ドイツで飛行機から降りて最初に目に

ついたのは方々に松の苗圃があることだ、実にうらやましいと思った、おそらくこの国には紅葉の美というものはないだろう。しかし

永遠に変わぬ緑の美は人の目を楽しませ、国の富を増すことだろう。

## 機械化されたデンマークの農家

○デンマークのウーラップに着いたのは七月二十日、ここはデンマークの北端に近く西海岸に面した寒村である。濃霧こそないが北海道の根訓原野のようにトキビもできなければ豆類もできない。馬鈴薯さえも重粘

土と湿地で十分収穫できないという。

○そこに機械化ということが考えられる、現在の主な農具は二頭引アラウ、カル

チバッカ、三筋カルチベーター、三頭引スプリングハロー、スレッシャー、三頭引セリビナー（自動刈取結束機）リーバー、モーラー、ルートカッターその他である。

また畜舎なども二階に直ちに馬車を引き

入れるように設計されている。

私の訪問したラムスガートさんは、

農林省の農業改良普及員デンマーク派遺団員の一人である北海道代表深沢聰君（音江

## 牧草と園芸 十二月號目次

### ◆家畜ビートの収穫貯蔵

上野幌育種場

### ◆歐州の農業事情を視察して

工藤 良忠

### ◆りんごと酪農

岩館 義博

### ◆今年の作柄から反省して

石田文三郎

### ◆菊花品評会を観て

梧楼

### ◆冬季の粗飼料

三浦

### ◆デンマークのウーラック

上野幌育種場

### ◆欧洲の農業事情を視察して

工藤 良忠

### ◆りんごと酪農

岩館 義博

### ◆今年の作柄から反省して

石田文三郎

### ◆菊花品評会を観て

梧楼

### ◆冬季の粗飼料

三浦

### ◆デンマークのウーラック

上野幌育種場

### ◆欧洲の農業事情を視察して

工藤 良忠

### ◆りんごと酪農

岩館 義博

### ◆今年の作柄から反省して

石田文三郎

### ◆菊花品評会を観て

梧楼

### ◆冬季の粗飼料

三浦

### ◆デンマークのウーラック

上野幌育種場

### ◆欧洲の農業事情を視察して

工藤 良忠

### ◆りんごと酪農

岩館 義博

### ◆今年の作柄から反省して

石田文三郎

### ◆菊花品評会を観て

梧楼

### ◆冬季の粗飼料

三浦

### ◆デンマークのウーラック

上野幌育種場

### ◆欧洲の農業事情を視察して

工藤 良忠

### ◆りんごと酪農

岩館 義博

### ◆今年の作柄から反省して

石田文三郎

### ◆菊花品評会を観て

梧楼

### ◆冬季の粗飼料

三浦

### ◆デンマークのウーラック

上野幌育種場

### ◆欧洲の農業事情を視察して

工藤 良忠

### ◆りんごと酪農

岩館 義博

### ◆今年の作柄から反省して

石田文三郎

### ◆菊花品評会を観て

梧楼

### ◆冬季の粗飼料

三浦

### ◆デンマークのウーラック

上野幌育種場

### ◆欧洲の農業事情を視察して

工藤 良忠

### ◆りんごと酪農

岩館 義博

### ◆今年の作柄から反省して

石田文三郎

### ◆菊花品評会を観て

梧楼

### ◆冬季の粗飼料

三浦

### ◆デンマークのウーラック

上野幌育種場

### ◆欧洲の農業事情を視察して

工藤 良忠

### ◆りんごと酪農

岩館 義博

### ◆今年の作柄から反省して

石田文三郎

### ◆菊花品評会を観て

梧楼

### ◆冬季の粗飼料

三浦

### ◆デンマークのウーラック

上野幌育種場

### ◆欧洲の農業事情を視察して

工藤 良忠

### ◆りんごと酪農

岩館 義博

### ◆今年の作柄から反省して

石田文三郎

### ◆菊花品評会を観て

梧楼

### ◆冬季の粗飼料

三浦

### ◆デンマークのウーラック

上野幌育種場

### ◆欧洲の農業事情を視察して

工藤 良忠

### ◆りんごと酪農

岩館 義博

### ◆今年の作柄から反省して

石田文三郎

### ◆菊花品評会を観て

梧楼

### ◆冬季の粗飼料

三浦

### ◆デンマークのウーラック

上野幌育種場

### ◆欧洲の農業事情を視察して

工藤 良忠

### ◆りんごと酪農

岩館 義博

### ◆今年の作柄から反省して

石田文三郎

### ◆菊花品評会を観て

梧楼

### ◆冬季の粗飼料

三浦

### ◆デンマークのウーラック

上野幌育種場

### ◆欧洲の農業事情を視察して

工藤 良忠

### ◆りんごと酪農

岩館 義博

### ◆今年の作柄から反省して

石田文三郎

### ◆菊花品評会を観て

梧楼

### ◆冬季の粗飼料

三浦

### ◆デンマークのウーラック

上野幌育種場

### ◆欧洲の農業事情を視察して

工藤 良忠

### ◆りんごと酪農

岩館 義博

### ◆今年の作柄から反省して

石田文三郎

### ◆菊花品評会を観て

梧楼

### ◆冬季の粗飼料

三浦

### ◆デンマークのウーラック

上野幌育種場

### ◆欧洲の農業事情を視察して

工藤 良忠

### ◆りんごと酪農

岩館 義博

### ◆今年の作柄から反省して

石田文三郎

### ◆菊花品評会を観て

梧楼

### ◆冬季の粗飼料

三浦

### ◆デンマークのウーラック

上野幌育種場

### ◆欧洲の農業事情を視察して

工藤 良忠

### ◆りんごと酪農

岩館 義博

### ◆今年の作柄から反省して

石田文三郎

### ◆菊花品評会を観て

梧楼

### ◆冬季の粗飼料

三浦

### ◆デンマークのウーラック

上野幌育種場

### ◆欧洲の農業事情を視察して

工藤 良忠

### ◆りんごと酪農

岩館 義博

### ◆今年の作柄から反省して

石田文三郎

### ◆菊花品評会を観て

梧楼

### ◆冬季の粗飼料

三浦

### ◆デンマークのウーラック

上野幌育種場

### ◆欧洲の農業事情を視察して

工藤 良忠

### ◆りんごと酪農

岩館 義博

### ◆今年の作柄から反省して

石田文三郎

### ◆菊花品評会を観て

梧楼

### ◆冬季の粗飼料

三浦

### ◆デンマークのウーラック

上野幌育種場

### ◆欧洲の農業事情を視察して

工藤 良忠

### ◆りんごと酪農

岩館 義博

### ◆今年の作柄から反省して

石田文三郎

### ◆菊花品評会を観て

梧楼

### ◆冬季の粗飼料

三浦

### ◆デンマークのウーラック

上野幌育種場

### ◆欧洲の農業事情を視察して

工藤 良忠

### ◆りんごと酪農

岩館 義博

### ◆今年の作柄から反省して

石田文三郎

### ◆菊花品評会を観て

梧楼

### ◆冬季の粗飼料

三浦

### ◆デンマークのウーラック

上野幌育種場

### ◆欧洲の農業事情を視察して

工藤 良忠

### ◆りんごと酪農

岩館 義博

### ◆今年の作柄から反省して

石田文三郎

### ◆菊花品評会を観て

梧楼

### ◆冬季の粗飼料

三浦

### ◆デンマークのウーラック

上野幌育種場

### ◆欧洲の農業事情を視察して

工藤 良忠

### ◆りんごと酪農

岩館 義博

### ◆今年の作柄から反省して

石田文三郎

### ◆菊花品評会を観て</h

雪まで三回もブランディングとハローイングがくり返され、雑草を退治している。

能率的で積極的な組合の活動

○ラムスガートさんと深沢さんの厚意で七十キロ離れた町にある鶏卵輸出組合を見学した。八万二千人の組合員をもつこの組合（全国八ヶ所）は毎時一万個の卵を処理している。すべてが機械化され、まず照卵機によつて良い卵と悪い卵が区分され、良い卵はさらに一等から六等まで目方で分けて機械で合格のスタンプが押され、箱（三百六十個入）につめてイギリスやドイツに輸出されている。

また人工受精所等も見学したが立派な設備と多額の費用を惜みなく使つて家畜の品種改良に努力している。

**運河によつて築かれたオランダ**

○飛行機の上から見たオランダは全く水に浮かんだ島のように見える。飛行場から都心まで、都心からホテルまで運河また運河、しかもこの運河たるや水の流れの原則に反して海よりも大運河が低く、大運河よりも小運河がさきに低くなつてゐるというから面白い。大運河の堤防の多くはリッパな道路になつていて、デンマークの農村では、牧場に牛を放牧する時は、繫牧か電気牧柵であったが、オランダは小さい運河といふか排水溝が牧柵の代りをしている、先ず運河牧柵とでもいえよう。運河のことを書き過ぎたが、いま北海道で問題になつている鉄路附近のあの低湿地帯などはこんな方法でやらねばならぬと考えたからだ。

○オランダ人のほく木の靴は旅行者の眼に

珍しくうつるものなのだが、市内でも土産品として本物の靴、オモチャヤの靴が売られている。実際あの靴をはいている人々の姿も見られる。この低湿地帯の国で（牧草畠など水がついているのさえある）農作業をやるのに皮靴はどうにもならない。木の靴が用いられたわけも判る気がする。今ではゴム長をはいているのも見受けられるが――

**低湿地帯は酪農、乾燥地は園芸**

○低湿地には何といつても牛が多い（ここにはほとんどホルスタイン一点張り）。低湿地でないところは花卉（チューリップ、ヒヤシンス、ダリヤなど）の栽培が多く、これを海外に輸出している。輸出といえばオランダの海洋思想は大したもので、造船事業も盛んでしかも植民地から石油が豊富に取られるのだから鬼に金棒、北欧における海外貿易の中心だという。

○美しいオランダの街、高級な建築物、なにがそうさせたかはいわずともわかることで、日本も周囲に海をもつてゐる国何とかならぬものかと思つたりする。

**堆肥の生産を重点とするベルギーの農家**

○ベルギーではワーテルローの戦の跡をみた。その中で私の目を引いたのはプラオだつた。全く現在使つてゐるプラオと変つていない。ただ柄だけが一本の木で横木がついているだけだつた。農機具の進歩のおそいことをつくづく考えさせられた。

○有名な亞麻工場のあるグルトイेに行つたが、ここは人口四万の町で、その上七五%の人々が亞麻に依存して生計をたててい

る。どうだから全く亜麻の街といってよいだ  
ろう。リス河（ゴールデン・リバーと呼ば  
れている）をはさんで数知れぬ亜麻工場が  
ある。ここはむしろ亜麻茎の生産というよ  
りは製麻工場地だ。フランス、オランダ、  
まれにはドイツなどから原料を買つて製造  
している。そしてそれが個人経営が多いか  
ら面白い。それに北海道と異なっているの  
は、初めから価格は決めないで茎の販売時  
期に市場で相場が立つて、それで売ること  
だ。何しろ企業者が幾百もあるのでそんな  
ことになるのだろう。

○ベルギーで最も心を引かれたのは住宅の  
作りと堆肥場だった。多くは門を入れると両  
側に畜舎や農具庫、倉庫などがあり、中  
庭を経て住宅に入るが、その中庭に大きい  
堆肥場がある。堆肥場をなめながら日常  
の生活をしているといった具合だ。すべて  
の廃棄物は堆肥に積んでより多量に生産す  
ることを考えている。

それからこちらではデントコーンを作ら  
ず、すべて家畜の飼料はルタバガ、家畜ビ  
ート、砂糖大根の茎とパルプその他の牧草  
類だが、ビートの葉を非常に大切にしてい  
る。大きいコンクリートの半地下のサイロ  
を作り、詰め込んでいる。

ビートもようやく収穫期に入つたが一見  
して一万斤近くもとれそうな出来である。  
○なにしろここは酪農国で地力がある上に  
気象条件に恵まれ、北海道より一ヵ月ぐら  
い早播きして、収穫期は大体同じころな  
だから生育期間がのびているだけ反当収量  
が多い。

大規模で機械化されたアメリカ

○いま小麦やライ麦の播種の最盛期だ。二頭引（馬または牛）でブラオを掛けていたる。土地も五一六寸に耕している。ベルギーの畑には赤い花が咲いているのが見られるがこれらは全部ケシの花（雑草として生えている）だ。

### 大規模で機械化されたアメリカ

○米大陸に足を印してから十日になるが、正直のところまだ農村はよく見てない。ワシントン農業試験場を見学した際、附近の農村を見ただけだが、街のショーウィンドウの美しい花に混つてオモチャ南瓜、ポンキン（家畜南瓜）、デントコーン、大麦の穂などが飾られているから愉快だ。

○英國のローダムスケッドの試験場ではその歴史の古さを案内者が誇っていたが、ワシントンでは試験場の大きさを語ってくれた。四千町歩の用地を持ち三十棟近い温室があり、各種の品種試験が行われている。とにかく米国はその規模はすべて大きく、農業の機械化なども随分進んでいる。

○種苗店で特に面白いと思ったのは素人園芸家のために、これは芝生用の牧草だといつて数種の牧草の混合したものを作り、二ワトリ、ウサギ、その他小鳥の飼料まで混合したもの、煉り合わせた飼料（ダブレット）を売っている。小農具なども力学を応用したものが多かった。

○アメリカの農機具工場も見学したが一度見ぬ限り想像もつかぬことだ。数分間に一台のトラクターが生産されることなど驚きの外はない。